

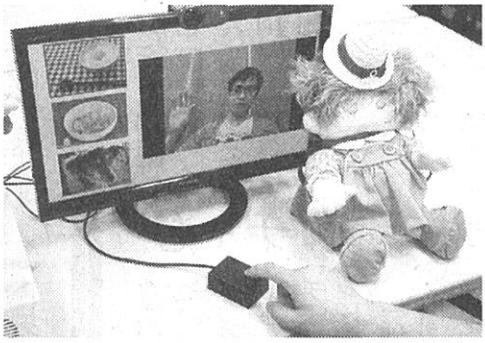
埼玉経済



久野 義徳 大学院理工学研究科 教授
82年東京大学大学院工学系研究科博士後期課程修了。工学博士。東芝コミュニケーションセンター主任研究員、大阪大学大学院工学研究科助教授を経て、00年4月から現職。専門はコンピュータビジョン、知能ロボット、ヒューマンインターフェース。

認知症者の支援システム

久野 義徳 大学院理工学研究科 教授



サイ・テク こらむ・知と技の発信

[274]

埼玉大学・理工学研究の現場

■ビデオ通話で見守り

認知症高齢者の増加が大きな問題になっています。医学や介護などの分野で対応が検討されていますが、工学からも貢献することができないかと研究を進めることがであります。

めています。

認知症の進行を抑えるには、

コミュニケーションなどの社会的活動が有効であると言われています。特に自分をよく知っている家族や親しい人の会話は

効果があると考えられます。しかし一人暮らしや、介護施設に入居されている場合には、そのような機会を多く持つことが難しくなります。

そこで高齢者が離れて暮らしている家族らと簡単にビデオ通話ができるシステムを開発しています。このシステムには、

使用者が使いたいと思い、そして簡単に使えるようにするヒューマンインターフェースと呼ばれる部分の技術が重要になります。

こののようなシステムの場合、使用者が使いたいと思い、そして簡単に使えるようにするヒューマンインターフェースと呼ばれる部分の技術が重要になります。

操作はボタン一つでできるようになります。ボタンを押して人を呼ぶナースコールと同じ操作なら可能であろうということです。テレビの電源が切れているときでも、あるいは番組を視聴中でも、ボタンを押すだけ

で家族からの電話を受けたり、

また家族に電話したりできま

す。

■小型PCを利用

最近、家庭用のロボットが話題になっていますが、高齢者が一人で使えるかというと、問題が多いと思われます。また最初に通常のPCを用いて実験機を試作し、認知症の方に試していただいたのですが、「見慣れないものが来た」という感じで受け入れてもらえないようでした。

■親しまれるロボット

ロボットにはビデオカメラ、温度センサ、それに部屋のドアの開閉センサなどのセンサが接続されています。ロボットは朝、午後、夜などに連絡するようになります。また、自動で高齢者

高齢者の様子を見守り、何か問題がありそうな家族に通知します。

た。

そこで、在室のばずなのに長時間、温度センサが温かいもの

(人間)の動きを感じないなど

操作はボタン一つでできるようになります。また、自動で高齢者

と対話できるようになります。

研究しています。

現在、以上のようなシステムの試作が完了したので、実際に

実証実験を計画して

います。実験の結果により改良

を加え、実応用を目指していき

企業、団体、商店街などの話題や情報を寄せください
TEL 048-795-9161 FAX 048-653-9040
✉keizai@saitama-np.co.jp